タイトル日本語（12ポイント；ゴシック）

―サブタイトル日本語―（9ポイント；ゴシック）

第一著者名1)\*・第二著者名2)・第三著者名3)（10ポイント；明朝．責任著者には\*を添え，同一所属には同一番号を振る．単著でも所属番号1)を振る．英文も同様）

Title in English: Sub Title in English (10point; Arial; Bold；タイトルとサブタイトルの文頭は必ず頭文字を大文字；冠詞・前置詞・andなど以外は文中でも頭文字を大文字)

First Author Name1)\*, Second Author Name2) & Third Author Name3) (9point; Century)

Abstract in English (9point; Century: 150単語以内)

abstractsabstractsabstractsabstractsabstractsactsabstractsabstractsabstractsabstractsabstractabstractsabstractsabstractsabstractsactsabst.

キーワード: あいうえお，かきくけこ，さしすせそ（8 point; ゴシック; 4～6個の範囲）

1．節見出し（第1節）

●ページ数は，このテンプレートで最大8ページ．ただし，投稿者の意図とは異なるかたちで表が組版される場合があるので，制限分量ぎりぎりに原稿を作成してはならない．

●このファイルに直接文章を記述し，図表を貼り付ける．テンプレートファイルに似せて自ら作成したWordファイルを使用してはならない．

●『農林業問題研究』投稿論文審査基準（http://a-rafe.org/4/2/285）の基準3「既存研究のレビューを通じて，新規性と学術的意義が論じられていること．」に留意し，原稿を作成する．

●所属ボックスや図表ボックスの位置取りがうまくいかない場合は，次のように対処する．①所属・図表ボックスをいったん別のテンプレートファイルに退避させる．②文章を全て入力する．③上から順に所属・図表ボックスを適切な位置に貼り付ける．

★節見出しは9ポイント；ゴシック；Arial．（第1節と第2節以降でスタイルが異なるので注意）．

1）ABC大学大学院XXX研究科；Graduate School of XXX, ABC University（7ポイント；明朝 or Century；所属部局まで記載）　注意：このテキストボックスの下側の位置，左右の幅は絶対に動かさないで下さい．所属数が少なくて余白が出る，あるいは所属数が多くてはみ出てしまう場合は，テキストボックスの上の枠線のみを動かして調整して下さい．

2）XYZ大学YYY学部；Faculty of YYY, XYZ University

3）ZZZ機構DEF農業研究センター；DEF Agricultural Research Center, ZZZ Research Organization

\* E-mail：XXXXX@yyyyy.ac.jp

©地域農林経済学会

（1）項見出し

★項見出しは8.5ポイント；ゴシック；Arial．

★本文日本語（8.5ポイント；明朝；Century）．

★A4で余白は上下各47mm，左右各34.5mm．

★1行全角23文字，2頁目以降1頁につき43行．

★読点は「，」で句点は「．」．

2．節見出し（第2節以降）

（1）項見出し

★表を挿入する場合，「テキストボックス」を挿入し，その中に表を作成するか，Excelで作成した表をテキストボックス内に貼り付ける．後者の場合，「貼り付けオプション」は「貼り付け先のスタイルを使用」とする．

いずれの場合もテキストボックスの「文字列の折り返し」は「上下」に設定し，表と本文の間は上下とも改行により1行あける．

表のタイトルやキャプション，注記はテキストボックス内に直接打ち込み，それぞれのスタイルを適用する．表中の文字のフォントは，日本語は明朝，英数字はCentury．



図1．タイトル

資料：図表キャプション．URLを直接記述してはならない（引用文献にリストすること）．

1）図はモノクロ（白黒）で作成すること．

図2．タイトル

資料：図表キャプション．URLを直接記述してはならない（引用文献にリストすること）．

1）図はモノクロ（白黒）で作成すること．

表1．タイトル（8.5ポイント；ゴシック；Arial）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 行A1) |  |  |  |  |  |  |
| 行B2) |  |  |  |  |  |  |

資料：図表キャプション（7.5ポイント；明朝；Century）．URLを直接記述してはならない（引用文献にリストすること）．

1）注の文（7.5ポイント；明朝；Century）．スタイル「図表の注」を適用．

2）片カッコ付の連続した番号を振ること．

図表中の注記関連箇所には注番号を片カッコつきの上付き文字で示し，注の文を図表の下に記す．

3．節見出し（第2節以降）

（1）項見出し

★図（グラフを含む）を挿入する方法．Word上で直接作成する場合，図のサイズに応じて改行してできたスペースに図を作成する．図と本文の間は上下とも改行により1行あける．図中の文字のフォントは．日本語は明朝，英数字はCenturyとする．

図のタイトルやキャプションは本文に直接入力する．タイトルは図の下側に，キャプションはさらにその下側に配置する．

表2．タイトル

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| あいうえお | かきくけこ1) | さしすせそ | たちつてと | なにぬねの |
| はひふへほ | 123 | 456 | 789 | 0 |
| まみむめも | 1,111 | 2,222 | 3,333 | 4,444 |
| やゆよ | 5,555 | 6,666 | 7,777 | 8,888 |
| らりるれろ | 999,999 | 999,999 | 999,999 | 999,999 |

資料：図表キャプション．URLを直接記述してはならない（引用文献にリストすること）．

1）注が1つの場合でも1）を振ること．

図を楽に移動したり本文と重なったりしないようにするためには，図の各パーツを同時に指定して「グループ化」し，「文字列の折り返し」は「上下」に設定するとよい．

（2）項見出し

★Excelで作成したグラフや図を貼り付ける場合，図のタイトルやキャプションを除いた部分のみをコピーし，「貼り付けオプション」で「貼り付け先のテーマを使用しブックを埋め込む」を選択して貼り付ける．「図」は選択しない．「文字列の折り返し」は「上下」に設定する．

（3）項見出し

★図表は原則として片側の段に収まるものとするが，やむを得ない場合には下に示すように左右両段にまたがるものも可とする．ただし，ページの上端または下端に配置すること．

段の数を変更せずに左右の段にまたがる図表を配置するには，図表（表の場合はそれを収めたテキストボックス）の横幅を二段分の幅とほぼ等しくしたうえで，図表を選択し，右クリックして「文字列の折り返し」を「四角」に設定するとともに，「その他のレイアウトオプション」において，「文字列との間隔」を上下とも5mm に設定する．

4．節見出し（第2節以降）

（1）項見出し

★数式について（以下の例ではMicrosoft数式3.0を使用している）．

フォントの種類は自由．フォントサイズは8.5ポ

イントを標準として，上付，下付文字は5ポイントとする．シンボル文字については，メインを10ポ

イントとし，サブは6ポイントとする．

（2）項見出し

■数式を本文に挿入する場合：上下幅の大きな数

式を挿入すると数式の上下が切れる．その場合，

以下のように数式を挿入する行を改行したうえ，

該当の行のみ［段落］→［行間］で

「2行」に設定する．その際，行頭が1文字下がるので，消去する．

また，改行された行ならびにその前の行の末尾が下がる場合は，該当行を選択し［フォント］→［詳細設定］→［文字間隔］で字間を広げる．

（3）項見出し

■数式単独の場合：スタイルは「本文日本語」を選択し，該当の箇所のみ中央揃えとする．また数式の上下が切れたり重なったりする場合は，［段落］→［行間］で，「2行」を選択する．



5．節見出し（第2節以降）

★本文に注を挿入する場合，挿入箇所に注番号を上付き文字（片カッコは所属番号と混同する恐れがあるため，つけないこと）で示す1．注の内容は引用文献リストの前に一括して並べる．脚注機能は使わないこと2．使うと自動的に文書の末尾に注の文が配置されてしまう．

★文献の引用方法は，学会ウェブサイトに掲載されている『農林業問題研究』投稿規程細則に従うこと．たとえば，鈴木（2013）によると，のようにする．

謝辞

スタイルは「本文日本語」を適用し，必要に応じて謝辞を記述する．個別報告時の座長や質疑応答者を謝辞に含める必要はない．

注

1 スタイル「注釈」（7ポイント；明朝；Century）．

2 注番号は上付き文字にし，注の文章を書き始めること．なお，本文や図表資料，注に引用文献の書誌情報（タイトルやURLなど）を直接記述してはならない．

3 J-stageへの全文HTML登載時の不具合の原因となるので，節見出し，項見出しには絶対に注を振ってはならない．

引用文献

文献本文（7ポイント；明朝；Century）

投稿規程細則（http://a-rafe.org/4/2/130）の記載例に従って記述して下さい．本文中での引用方法や引用文献リストの記述スタイルに不備があると，J-stageへの全文HTML登載時の不具合の原因にもなりますので，よく確認修正してから投稿して下さい．

鈴木農経（2013）「〇□△×の□◎と×〇に対する影響」『□△◎研究』15(2)，1-11．

Chiiki, N. (1991) Literatures in foreign language should be placed separately from Japanese literature. Journal of ####, 10(1), 54-63.